

平成27年度  
第60回 長野県中学校連合教科研究会

# 道 徳

目 次

I 研究テーマ	1
II 趣旨	1
III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名	1
IV 研究問題と協議内容	2～5
V 本年度研究会の反省と来年度の方向	6
VI あとがき	7

## I 研究テーマ

「魅力ある道德の時間の創造」

## II 趣 旨

- 1 中学校教師だけでなく、小学校や特別支援学校教師もかかわり、明日の道德の時間をどのように進めるかを考え合い、学校に戻り、実践したいと思えるようにする。
- 2 児童・生徒の姿や心情をもとに魅力ある道德の時間を創造したい。特に、児童・生徒のもつ良さを捉えたり、姿に寄り添ったりした上で、資料づくりや展開を図りたい。そのことによって、学習している生徒が「楽しかった」「学んで良かった」と思える授業を目指していきたい。
- 3 児童・生徒の実態把握とねらいを明確にして、児童・生徒が道德的な価値を主体的に追求できる単元展開や授業展開を工夫し、児童・生徒にとって魅力ある道德の授業を紹介し合いたい。
- 4 評価の実際について意見交換し、望ましい評価方法について明らかにしていきたい。

## III 参加校テーマ一覧と参加者、指導者名

- 1 第1分科会 指導者 長野県教育委員会心の支援課指導主事 矢島 和明 先生  
司会者 安曇野市立三郷中学校教諭 正谷 晴邦 先生  
記録者 小諸市立小諸東中学校教諭 竹腰 鮎美 先生  
世話係 信州大学教育学部附属長野中学校教諭 岡宮 隆吉 先生

番号	学校名	参加者名	研究テーマ
1	御代田町立御代田中学校 大澤 美香 先生		「生徒の考えを引き出し、寄り添う道德の授業を目指して」
2	松本市立明善中学校 小松 亮太 先生		「豊かな道德的心情をはぐくむ道德の授業」
3	信州大学教育学部附属長野中学校 岡宮 隆吉 先生		「道德的価値を自分とのかかわりの中で自覚し、生活の中でよりよい行為を選択する道德的実践力を高める指導の在り方」
4	上田市立第二中学校 塩田 直人 先生		「生徒の思いや意識が深まる道德教育はどうあったらよいか」
5	茅野市立北部中学校 三井 麻矢 先生		「道德教育における授業方法と目指すべき姿について」
6	中野市立高社中学校 小林 翔 先生		「学び合う授業の実践～聴き合う人間関係の構築を目指して～」

- 2 第2分科会 指導者 長野県総合教育センター専門主事 丸山 美恵 先生  
司会者 箕輪町立箕輪中学校教諭 五味 和高 先生  
記録者 長野市立更北中学校教諭 小柳 有希 先生  
世話係 信州大学教育学部附属松本中学校教諭 阿部 考彰 先生

番号	学校名	参加者名	研究テーマ
1	小諸市立小諸東中学校 河野あやね 先生		「他者との関わり方を振り返って、自分自身を見つめる道德の授業」
2	須坂市立墨坂中学校 石井 信好 先生		「生徒が資料や友とかかわって、自分の問題として受け止め学ぶ道德の授業はどうあったらよいか」 ～道德的価値を深めるために有効な資料の扱い方とは～

3	中野市立南宮中学校 佐藤 育也 先生	「関わり合い、学びを深める授業はどうあったらよいかを受け、 道徳における友の考えから学びを深める授業の在り方」 ～発問と教師の問い返しに焦点をあてて～
4	信州大学教育学部附属松本中学校 阿部 考彰 先生	「生徒が生き生きと語り合う中で道徳的価値観を自覚し、 深めていく道徳の学習」
5	安曇野市立豊科北中学校 加藤 悦子 先生	「ボランティア活動の在り方について」
6	長野市立北部中学校 國信 光咲 先生	「他者と生活する上で、他者意識が大切だということに気付く授業」

#### IV 研究問題と協議内容

##### 【第1分科会】

##### 1 生徒・登場人物に寄り添うことについて

###### (1) 御代田町立御代田中学校の実践より

- ・資料の内容理解から心を寄せるまでの時間が足りないと感じている。事前に資料を配り、生徒自身が気になる部分に線を引かせたり、メモ書きをさせたりし、生徒がどの部分を押さえているのかを知ることができたので事前に資料を読ませる良さがある。
- ・まとめの部分で主人公の気持ちを考えるだけでなく、「自分だったらどうするのか」と自分の立場で考える時間をつくりたい。

###### (2) 矢島先生よりご指導

- ・生徒が負の部分や失敗した体験を皆の前で発表することには勇気がいる。道徳の授業開き等で教師の願いを伝えたり、教師自身の失敗談等を話したり、安心して語れる経験を積み重ねたりしていくことで、人間理解につなげていきたい。

##### 2 生徒の考えを引き出し、道徳的価値を追求する授業の在り方について

###### (1) 松本市立明善中学校の実践より

- ・グループでの話し合いでは、真剣に向き合う友だち関係を意識できているグループもあれば、友だち関係までとどろつかないグループもある。話し合いの焦点を絞って授業を行う必要がある。いろいろ詰め込みすぎると振り返りの部分で深まりがないまま終わってしまう。

###### (2) 矢島先生よりご指導

- ・道徳資料には、ねらいがあり追求する良さがある。道徳的価値については、生徒の考えた多様な意見が出てくる中で道徳的価値の押しつけにならないよう、互いの良さを認めていきたい。

##### 3 「道徳資料」を扱いながら、意見交換や語り合う場を位置付けていくための手立ての在り方

###### (1) 信州大学教育学部附属長野中学校の実践より

- ・道徳の授業で家族について扱うことも大切だと考える。誕生日に両親から何も言われないうちに友だちに言われて嬉しいということもある。このような生徒たちにも、この世に生を受けて良かったと思える授業展開をしていきたい。
- ・生命尊重に流れてしまうこともある。家族愛のよさを感じられる授業展開を進めていきたい。

###### (2) 矢島先生よりご指導

- ・道徳資料は、学級、生徒の実態を踏まえながら、意見交換等の場を設定していくことが大切。このようなことから道徳の授業を行うのは、原則として学級担任と言われているものとする。

#### 4 生徒が教材の道徳的価値に気付き、思いや意識が深まる発問の在り方について

##### (1) 上田市立第二中学校の実践より

- ・中心発問を授業の導入段階で行い、授業の終末でもう一度問い直す授業を展開した。始めと終わりで自分の考えが変わる生徒もいれば変わらない生徒もいた。
- ・道徳の授業を行って良かったなと思うときは、生活記録に感想や自分の考えを書いてきてくれたとき。学級通信で紹介すると、「こんなことを考えているのだな」と再度共有することができる。

##### (2) 矢島先生よりご指導

- ・道徳の授業の主導は教師であり、主体は生徒である。「今日は〇〇について考えます」と授業に入り、「今日は〇〇について考えてきたよね」とまとめる方法もある。資料や発問を読み違えている生徒には、再度確認をしていく必要がある。
- ・まとめの部分に生徒の考えが出てくる。多様な意見が出てくると、生徒は、互いの意見を見合うようになる。

#### 5 道徳的価値の自覚の深まりに対する評価、グループ学習の在り方について

##### (1) 茅野市立北部中学校の実践より

- ・「世界全体が幸福にならないといけないな」という思いにつなげていくために「幸せになれるわけがない」という意見については、「みんなが幸福になれるよう頑張りたいよね」と終わりたい。
- ・自由に意見を言いつつも理想をもち、自分にできることは何なのかを考えさせていきたい。道徳的価値を理解した上で話し合い、良い雰囲気になるような授業づくりをしていきたい。

##### (2) 矢島先生よりご指導

- ・小グループについては、実態に応じて「誰と誰を同じグループにする」「同じ意見同士にする」「違う意見を話し合わせる」と意図的に組むのが望ましい。また、話し合う内容も明確にし、司会者の育成もしていきたい。グループの司会者と事前に打ち合わせを行い、指示書などを見ながら行えるとスムーズに進行ができる。このように意図的に仕組むことで、生徒も話しやすくなる。

#### 6 仲間の意見を聴き合うために有効であると考えられる手だてについて

##### (1) 中野市立高社中学校の実践より

- ・題材を学校行事に合わせて行ったことで、授業の最後にクラスの実態として自分たちの練習の様子を流すと、音楽の授業の反省に流れてしまうこともあるので気を付けたい。
- ・合唱コンクールを通して、ビシッとと言えることを考えさせていきたいが、合唱コンクールに向けてどうしていきたいのかになってしまう。

##### (2) 矢島先生よりご指導

- ・学校行事の前に道徳資料をもとに「生徒がこうなってほしい」をねらいにしてしまうと道徳のねらいとずれてしまう。道徳資料で気付かせたい道徳的価値に迫れるような授業を行ってほしい。やがて、生徒たちが出会う判断しなければならない場面に様々な場面や状況で実践していくための引き出しづくりをしていくことが道徳の授業の目的である。

#### 7 矢島先生のご指導

##### (1) 学級づくりが基礎

- ・「意見の言えるクラス」「多様な考えが出せるクラス」の話題が多かったが、各教科の授業を通してつくっていく。授業開きから始まり、日々の授業の積み重ねが大切になる。

##### (2) 中心発問、指導方法の工夫

- ・「資料を分ける、分けない」「生徒の発言を押さえる、押さえない」「なぜと問うか、どんな気持ちだったでしょうと問うか」と迷うことがあるが、大切にしていきたいのは、「ねらい」や「一人一人への願い」から考えた指導方法の工夫である。

(3) どのような授業展開にするのか

- ・1時間の中で本時のねらいや、どのようなことを学ばせていきたいのかをベースにしていく。また、生徒の価値の自覚の深まりのために、どのように発問していくのか吟味していきたい。

(4) 評価のために

- ・それまでの生徒の実態を把握し、本時でどのようなことを書いたのかを評価していきたい。

- ① 深まりを見る（評価）
- ② その生徒らしくない考えについては、なぜそうなったのかを見る（指導の振り返り）
- ③ 違う姿が見られる→その生徒への理解が広がる（把握）

学習カードへの記述が足りていない場合には、授業を見返すことをしていきたい。

文責 第1分科会記録者 小諸市立小諸東中学校 竹腰 鮎美

## 【第2分科会】

### 1 内容項目：「他の人とのかかわり」から考える道徳の授業づくり

- ・内容を吟味した事前アンケートをもとに授業へ入ることで、子どもたちに必要感が生まれ、心が揺さぶられる効果があるのではないかな。
- ・発問の中に、「なぜ」や「自分ならどうする」という言葉が入ると書けなくなる子どもも出てくる。登場人物の気持ちを考えることで、考えやすく様々な意見が出されやすくなることもある。
- ・子どもの意見をつなげるためにも指名計画が大切である。自分に寄せて考えている子ども、正論を書いて止まってしまっている子ども、書けていない子どもの一時間の考えの変化を追っていくようにし、意図的に指名して全体の考えに深まりが出るようにしたい。
- ・教師が意図したゴールへ強引に引っ張ってしまうこともある。意図しない意見に対しても受け入れる心の余裕をもって授業に臨むことが大切である。また、子どもは心が揺さぶられているときほど、記述が混乱しているときもある。問い返しを行うことで考えていることを具体化させたい。
- ・扱う資料は、読み物資料だけでなく、絵本を資料として使うと、視覚的に入りやすく効果がある。資料の選定については、学級全体を揺さぶるものを基準として選ぶだけでなく、一人の子どもの日常生活の見とりから揺さぶりをかけることができるものを選ぶことも一つの方法である。
- ・教師と子どもの一問一答ではなく、子ども同士が語り合っ内面をさらけ出せる授業にするために、机やいすを取り払って車座になって語りたくなる空気を作り出すことや役割演技、体験を取り入れた授業の工夫も考えられそうである。
- ・答えが一つでない問題に向き合い、教師と子どもを含めた全員で考え合っ深めていくことが道徳の授業の姿であり、それが子どもにとって道徳が面白いと意欲をもたせることにつながる。

### 2 内容項目：「集団や社会とのかかわり」から考える道徳の授業づくり

- ・行事の活動での自分を振り返り、うまくいかなかったことを想起しながら、資料を読むことで、価値の再構築につながる。活動に絡めていく道徳もこれから大事にしていけると良い。
- ・行事での実体験を振り返り考えることで、経験が浅い子どもでも考えやすくなるのではないかな。
- ・グループ活動のためには、グループ内に自己開示して話しやすい雰囲気があること、関わりやすい状態であること、共通するテーマがあること、グループで話し合っ友の意見を聞きたいという切実感が生まれることが必要である。
- ・行事での体験をもとにすることは、全員が共通した土台をもてるため、考えやすい時間になる。
- ・中心発問についての考えを問い返すことで、自分の弱さに気づき、友の考えと合わせていくことで深まりが出てくると考えられる。その部分に気付いて記述できている子どもを探し、紹介していくことで全体の考えの深まりが出てくる。

- ・机間指導には時間がかかりがちだが、日常の生活での姿から子どもの反応を予想したり、様々な場面でみとった子どもの考え方を蓄積したりし、生徒理解をしてから授業へ臨みたい。
- ・道徳の授業に型はなく、様々にやり方やとらえ方がある。子どもの姿をよく考え、意見をつなげて本音を語らせることができるような授業を考えていきたい。
- ・興味をもたせるような資料があればいいが、中心発問や扱う題材をしっかりと吟味していくことで心や価値が揺さぶられれば、子どもたちはひきつけられる。

### 3 丸山美恵先生のご指導

- ・子どもの姿、考えを大事にするということは、やらせっぱなしにすることと同じではない。
- ・子どもの考えをとらえた適切な問い返しをするなどして、道徳的価値を深めたい。
- ・道徳の面白さは教師の意図した方向ではない子どもの考えが出てくるところであり、価値への迫り方も様々である。答えが一つではない問題に向き合い、考え・議論することを通して、道徳の授業を創っていくことを大切にしてほしい。

#### (1) 子どものとらえについて

##### ① 書くことで見えてくる子どもの姿

事前アンケートで子どもの実態を明らかにし、授業づくりへつなげることの有効性。(河野先生の実践より)

##### ② 長いスパンで子どもの姿をとらえる

三人の子どもを取り上げ、変容をとらえたり、その時間だけでなく、日常生活の姿の変化など長い期間での子どもの姿をとらえようとしていたりしていることの大切さ。(石井先生の実践より)

##### ③ 一人一人を見つめた授業づくり

集団に対する授業づくりだけでなく、思い通りに本音を出せない子どもに寄り添い、その子どもに焦点をあてた授業づくりが集団全体の学びの深まりにつながった。(阿部先生の実践より)

#### (2) 資料の分析について

教師が資料を十分読み込むことによって、自分事としてとらえたり、登場人物になりきったりする姿につながっていく。(佐藤先生の実践より)

#### (3) 中心発問について

- ・子どもにとって必然性、切実感があるものであるかどうか。また、発問にはテーマ発問か、ストーリーに寄せた発問など様々考えられる。授業づくりにおけるポイントとなってくる。
- ・中心発問にかかわり問い返しを行い、揺さぶり、葛藤場面を作りたい。学び合いや友の考えを聞ける部分にもつながっていく。

#### (4) 学校の教育活動全体で行う道徳教育について

大切な価値であることは頭では分かっているが、なかなか行動につながらない子どもも体験を振り返ることで、価値の再構築につながる。(加藤先生の実践より)

#### (5) 机間指導について

その時間だけでなく、普段の子どもの姿のからの見とりを積み重ねることが大切である。(國信先生の実践より)

文責 第2分科会記録者 長野市立更北中学校 小柳有希

## V 本年度研究会の反省と来年度の方向

### 1 本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<p>○「魅力ある」道徳を目指して授業を考えていきたいと思うので、よいテーマだと思う。</p> <p>○幅をもたせてあり、大変よいと思う。</p> <p>○自分としても課題としているところであり、心の成長を支える中学校でとても大切な部分だと思う。今後もずっと続くテーマだと思う。</p> <p>○“魅力ある道徳の創造”というテーマで、多くの先生方の実践や考えに触れ、私自身の道徳に対する興味、関心が深まった。</p>
○研究の主な内容と研究の成果について	<p>○県下の先生方はいろいろな研究をされていて、そういうことが分かるのはありがたいと思う。</p> <p>○先生方の実践から、たくさん学ばせていただいた。</p> <p>○自己課題を解決できる方向で議論してもらうことで、それぞれ勉強になったと思う。</p>
○研究の方法や経過について	<p>○新たな振り返り材料をいただけてよかった。</p> <p>○別の題材でも扱っていききたいと思う。</p> <p>○友とのかかわり合いの在り方、教科化に向けた評価の在り方など、気になります。</p> <p>○それぞれのテーマに向かって自己課題があると思うので、本年度のような形でよいと思う。レポートの形式も分かりやすくよかった。</p>
○研究会当日の運営について	<p>○自由に意見が言える雰囲気を作ってもらえた。</p> <p>○スムーズな運営でありがたかった。</p>
○研究集録等の Web ページ掲載について	<p>○大変分かりやすく、ありがたかった。</p>
○本年度運営全般について	<p>○文書など丁寧に送っていただき、ありがたかった。生徒のみなさんに受付や案内をしてもらい、心が和んだ。</p> <p>○分かりやすかった。とても楽しかった。</p> <p>○当日のレポート提出でよいのが参加しやすかった。</p> <p>●メールの内容が分かりづらかった。</p>

### 2 来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<p>○“魅力ある道徳の時間の創造”をテーマに据えたが、幅をもたせたものでよかったとの意見が多かった。本年度と同様の方向で進めていきたい。</p>
○来年度の研究の趣旨	<p>○来年度も「楽しい道徳の時間を学級、学年、学校で創っていききたい」という願いを大切に、本年度と同様の方向で進めていきたい。</p>
○来年度の研究の方法	<p>○年間35時間ある道徳の時間を大切にしたい。まず、やってみることが大事。題材や資料、生徒のワークシートなどを蓄積していきたい。内容項目ごとに蓄積していくのも興味深い。「道徳の時間は読物資料を扱って、形式通り進めなければならない」という考え方にこだわらない。</p>
○その他、改善したい点	<p>○全県テーマの周知をどのように行うか。県下の先生方が全県テーマに触れる機会がない。</p>

## VI あとがき

晩秋の一日、県下各地からお集まりいただいた先生方には、実践レポートや使用した資料、生徒の学びの姿や評価の在り方が分かる学習カードなどをもとにして、数多くの提案や討議をしていただきました。本年度の研究会を振り返ってみますと、道徳の時間に情熱を注いでおられる先生方の願いが、資料や主題の展開、学習課題の設定等に表れているレポートばかりで、なんとかして「魅力ある道徳の時間」を生徒のために創造していきたいと取り組まれていることがよく分かりました。また、討議の中では、それぞれの実践のよいところを学んでいこうとする先生方の発言ばかりで、そこからも参会された先生方の熱意が感じられました。来年度もこのような熱心な研究会にしていきたいと考えております。

終始適切で温かいご指導をいただきました長野県教育委員会心の支援課指導主事 矢島 和明先生、長野県総合教育センター専門主事 丸山 美恵 先生には、心から御礼申し上げます。また、研究会を実りあるものにしてくださった司会の安曇野市立三郷中学校 正谷 晴邦 先生、箕輪町立箕輪中学校 五味 和高 先生、細かく記録をとり厳しい日程の中で研究のまとめにご苦勞いただいた記録の小諸市立小諸東中学校 竹腰 鮎美 先生、長野市立更北中学校 小柳 有希 先生、数々の実践を携え、熱心に協議していただいた参会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

委員長 岡宮 隆吉（長野中）  
副委員長 阿部 考彰（松本中）